サケならぬヤツメ・ウナギのつかみどりもあった

第16回～第25回／昭和54年～昭和63年

昭和31（1956）年からスタートしたまつりも46年から53年までの間、サケの不漁でやむなく中止せざるを得ませんでした。その後、関係者の努力により石狩川も徐々に浄化され、稚魚放流事業などによってサケのそ上も年々数が増加。中止から9年後の昭和54（1979）年に会場を石狩浜に変え、石狩さけまつりが復活しました。

第17回のまつりでは2日間で3万人を動員。このときのサケの即売会では2日間で6千尾を販売。予定の5千尾を上回る反響でした。

第20回では、石狩さけまつり実行委員会が町民からミス・サーモンを募集。応募13人の中から2人が選ばれ写真撮影会のモデルなどとして活躍しました。

第24回からは、その後のまつりの代名詞にもなった「サケのつかみどり大会」が新たに始まりました。

また再開されてからの数回は、ヤツメウナギのつかみどりも行われていました。

▲第19回（昭和57年）ポスター

▲第16回（昭和54年）ポスター

▲第12回（昭和42年）ポスター

再開後の

さけまつりでは、海での地引網や広い砂浜を使った綱引き大会、カラオケ大会も取り入れられました。これも時代の変化でしょう。

さけまつりが休止していた間に、石狩町は大きく変わりました。樽川地区で石狩湾新港の建設が進められ、花川地区の住宅団地では人口が急増していました。花川地区では住民による石狩河口橋音頭のパレードが行われました。

また、さけまつりの会場も花川地区や新港地区にも設けられました。

この時代のまちの出来事

- ○昭和56年　石狩浜で本郷新制作の「石狩―無辜の民像」除幕式
- ○昭和57年　重要港湾石狩湾新港の入船式典と祝賀会を開催（東ふ頭）
- ○昭和59年　石狩町の人口が4万人となる
- ○昭和61年　マクンベツ湿原にミズバショウ観賞用桟橋設置
- ○昭和62年　日本缶詰協会が、開拓使石狩罐詰所の操業日である10月10日を「缶詰の日」に指定
- ○昭和63年　石狩町・花畔・生振の三農協が合併し、新生の「石狩町農業協同組合」が発足

花川地区を石狩河口橋音頭でねり歩く

石狩浜で力自慢が綱引き大会

石狩川や灯台をバックにモデルさんの撮影会

第26回～第49回／平成元年～平成24年

平成12（2000）年からは会場が現在の弁天歴史通りに移り、平成18年からは合併した厚田区、浜益区と合わせて「石狩三大秋まつり」の一つとして開催されています。

もともと石狩さけまつりは、小さな町のまちおこしとして始まりました。50回目を迎える今、まちの歴史、地元の産業と地域住民の関わり方などについて見つめ直す機会にしたいものです。

この時代のまちの出来事

- ○平成4年　石狩町の人口が5万人を突破
- ○平成5年　石狩町役場新庁舎完成、業務開始
- ○平成7年　石狩町サケ漁獲高64万1809尾
- ○平成8年　石狩市制施行
- ○平成10年　石狩灯台の移設工事開始（海側へ14m）
- ○平成12年　紅葉山49号遺跡の河川跡で約3800年前のサケの捕獲遺構を発見
- ○平成14年　北海道遺産石狩川歴史・文化伝承事業として「地引網」が復活（漁場ホリカモイ）
- ○平成16年　平成7年度以来のサケ大豊漁（漁獲高53万303尾）
- ○平成17年　石狩市・厚田村・浜益村が合併し新「石狩市」誕生
- ○平成24年　石狩LNG基地にタンカー初入港

▲第44回（平成19年）ポスター

▲第40回（平成15年）ポスター